

## 第56回全国歯科大学同窓・校友会談話会（全歯懇）報告

平成21年11月14日（土）に、福岡県北九州市リーガロイヤルホテル小倉において、第56回全国歯科大学同窓・校友会談話会（当番校：九州歯科大学同窓会）が開催されました。各大学同窓会会長や役員など関係者約100名が参加し、本会からは薦田会長と中西専務理事が出席しました。来賓として、日本歯科医師会副会長近藤勝洪氏、福岡県歯科医師会副会長永田正典氏、参議院議員石井みどり氏、公立大学法人九州歯科大学理事長福田仁一氏、九州歯科大学附属病院院長鱒見進一氏が列席され、歯科の現状や同窓・校友会に対する期待など、それぞれの思いを挨拶の中で述べられました。

本年のシンポジウムは、「－健康管理者としての歯科医師－（現行制度の中でどう国民の歯科医療を守るのか）」のタイトルのもと、九州歯科大学同窓会長松延彰友座長の進行により、パネラーとして来賓の近藤氏、石井氏に加え、河原英雄氏（大分県佐伯市開業）、下川公一氏（福岡県北九州市開業）、上野道生氏（福岡県北九州市開業）、中野稔也氏（福岡県北九州市開業）が各人のテーマについて講演されました。石井氏は、「日本の歯科医療政策上の課題」と題して、国民皆保険を基盤とする医療制度が我が国の高齢化社会確立に大きく寄与し、WHOにもその業績を高く評価されているが、今後どのように持続させていくかが課題であると述べられました。河原氏は、「潜在患者の顕在化について」という演題にて、国家試験合格率や8020運動に関する持論を述べられ、歯科医師を必要としている地域がまだまだ沢山存在していることを強調されました。下川氏は、「歯科医療昏迷の原因と問題点」と題して、歯科医学会や歯科医師会さらには行政の問題点を指摘・列挙し、かなり厳しい内容の講演を展開されました。上野氏は、「私たち（歯科界）が犯した大きな誤り（チーム医療からみえてきたこと）」と題し、歯科衛生士・歯科技工士の人材不足について講演され、充足率不足だけでなく若年者の離職率が増大している問題について詳しく述べられました。中野氏は、「保険中心の診療の中での私の取り組み」の演題にて、保険治療中心の地域において開業している若い開業歯科医師代表の立場で、いかに基本的治療を大事に行っているかについて、症例を交えて講演されるとともに、努力しても保険点数に跳ね返ってこない現有制度の疑問点を提示されました。その後、総合討論が行われ、昨年までの全歯懇とは雰囲気が異なり、率直な意見が飛び交う活発な討論がなされました。

会議終了後は、懇親会が催され、全国の同窓・校友会役員の方々と、日々の仕事や同窓校友会の業務等について語り合い、親交を深めることとなりました。

次年度の当番校は北海道医療大学歯学部同窓会で、札幌にて開催される予定です。